

あるまめーと

酪農学園関東同窓会会報

第16号 2009年12月

酪農学園関東同窓会
会報編集委員会

東京都港区西新橋1-10-1
正直屋ビル6階 〒105-0003
酪農学園東京事務所内
電話03-3508-8951

関東同窓会創立35周年 特別記念号

今後の同窓会活動のあり方 「文化遺産の共有と組織化」

酪農学園関東同窓会 役員一同

酪農学園関東同窓会は本年4月で発足35周年を迎えることができました。

発足への機運や経緯は、歴代の会長や事務局長が後述されており割愛しますが、昭和49年(1974年)に正式に発足しました。平成2年(1990年)から各県支部設立の機運が高まり、栃木県(平成3年)、千葉県(平成5年)、茨城県(平成7年)、群馬県・埼玉県・神奈川県(平成8年)、東京都・山梨県(平成18年)、新潟県(平成19年)に支部が設立され、今日に至っております。現在、長野県に支部を設立する準備中ですので、近々、関東甲信越全域に1都9県支部が設立されることになります。

関東同窓会の活動の方向性としては、①同窓生誰もが気軽に参画できる活動、②財政の健全化、③会員の拡大(1人1会員勧誘)、④受験生の発掘(教育および経験者の組織化)、⑤会報「あるまめーと」発行の継続。有志による名刺広告は会報発行の貴重な財源となっています。会報12号(2005年)から酪農学園の支援により5,000余名に配布しております。活動も徐々に充実しておりますが、役員各位のご尽力による献身的な運営協力によるものです。

同窓生は、それぞれの組織において、家族のため自己研鑽のため必死に働いている時代は、同窓会に期することは大きくなく、教室の先輩・後輩よりも、組織内での同僚などとのコミュニケーションを最重要視することのほうが有意義であると考えることが趨勢で

あると思います。

ここで同窓会の機能を改めて考えてみますと、世代のギャップと価値観の違いが存在するなかで、同窓生の集まりを自分の価値として評価できる組織内容でなければならないと考えます。大人としての見識を有し、能力や精神を纏め上げる見えない力を、作家の司馬遼太郎は同窓会のようなものを「文化遺産」と評したそうです。また、大人の見識とは、こうした風土を備えたうえで「じっくりと炊きつめたスープのような知を」新しい課題に使うことが必要であると書いています。

したがって、今後の同窓会活動のあり方としては、「文化遺産を共有化し、組織化する」ために、同窓生各位がさまざまな組織で活躍され、また現在活躍されている知識、「経験してきた知識(ヒト・モノ・情報等)」をどのように結びつけ、どのように組み合わせ、そしてどのような構造物を作り上げ、酪農学園・酪農学園同窓会のために結び付けていくか、構想力を高めていかなければと考えます。

時代は、情報のシステム化がより高速化され極めて身近なものとなっています。このことを利用した「文化遺産を共有化し、組織化する」仕組みを構築していきましょう。

酪農学園の発展に向けて

酪農学園理事長
麻田信二



このたび、酪農学園関東同窓会が設立35周年を迎えられたこと、心からお祝い申し上げます。記念式典を成功裏のうち

に終え、今後の更なる発展を目指して歩みを新たにしていることに、心からの敬意と感謝を申し上げます。

世界に目を向けると、地球温暖化や生物多様性の喪失、土壌の流亡・劣化などが急速に進み、人口の増加とともに、人類社会の持続性に注意信号が灯り始めています。

また、国内的には、食料自給率が40%に低下する中、輸入される食料・食品の安全・安心が保たれず、国産食料の供給を担う農家の高齢化・減少が進み、このままでは日本は立ち行かなくなることが心配されます。

酪農学園はこれまで、多くの人材を社会に送り出してまいりましたが、少子化の流れの中で、酪農学園への志願者が減少し、高校、大学・短期大学部とも入学定員を満たせなくなってきましたが、これからの社会を考えると、酪農学園に学ぶ若者が減少することは社会の衰退に結びつくものと考え、魅力ある酪農学園を目指して改革に取り組んでいます。

高校では、2010年4月に向けて、普通課程に、大学獣医学科に最大30名推薦入学できる獣医進学コースをはじめ、食と農に関する科目を学べるフードクリエイトコースなど、そして、酪農経営科をアグリクリエイト科(機農コース)とし、全体で6コース制に改めるほか、全国を対象にした通信制普通課程を新たに設ける予定です。

大学・短大部については、大学と短期大学部を統合し、2011年4月に向けて、学部・学科制を改め、学士課程教育を中心とした本学独自の教育体制として、2学群・5学類とする検討をしています。さらに、酪農学園の特色を打ち出し、魅力ある高等教育機関とするため、実学主義に立脚した酪農学園共通教育なども検討しています。

多くの若い人たちにとって、より魅力的な学園となりますので、関東同窓会の皆さんには、酪農学園のPRをお願いし、同窓会創立35周年のお祝いいたします。

関東同窓会 35 周年記念によせて

酪農学園同窓会連合会 会長 野村 武

関東同窓会が35周年を迎えられ心からお喜び申し上げます。

貴会はほぼ酪農学園同窓会連合会の活動の歴史と供にして、諸先輩の長年に亘るご努力により地域同窓会として全国一の会員数(約5,200名)を有しながら立派な同窓会活動を行って来られ、その活動の中心となっている同窓会会報「あるまめーと」が35周年記念号の発刊を迎えることに本会として心から敬意を評するものであります。

貴会活動の歴史を顧みるに、昭和49年4月に東京都をはじめ首都圏に居住している酪農学園卒業生(酪農義塾、機農学校・高校、



短期大学、大学)の仲間たちが雪印乳業健康保険組合の会議室に集い、「酪農学園関東同窓会」を設立、初代会長に古田修吾氏が就任し、その後、2代目八重樫鐵男会長が昭和62年9月に遊佐理事長を招き「卒業生の大同団結を合言葉」により組織の活性化が推進された。

その後、会長は奥野誠氏、野田修平氏、南雲良三氏へとバトンタッチされて同窓会県支部の設立など貴会活動の充実を計って来られ、特に野田会長は支部同窓会の活性化と本会の執行体制の改革を訴え、その後、本会執行部役員として活躍され現在の同窓会連合会活動に大きく寄与された功績は大きい。その後を引き継いだ南雲会長は本会副会長としてまた、埼玉県の後藤久雄支部長は本会理事として同窓会連合会の改革のリーダーとして同窓会連合会の運営に全力投球していただいているところであります。

6月14日開催された関東同窓会設立35周

年記念式典に出席させていただき、歴代の会長、事務局長等の他に前同窓会連合会会長も含めて過去の功績を讃えて表彰されたことは貴会の先人を敬う懐の深さを感じた次第であり、記念講演の古田初代会長の齒に布を着せないお話は酪農学園の歴史を知る上で貴重なお話でありました。

また、同時に開催された埼玉県支部の環境シンポジウムの基調講演「牛一筋」県酪農協会会長・青木雄治氏のお話と4人の酪農学園卒業生の現役酪農家によるシンポジウム主題「埼玉県から酪農学園に提案」副題「埼玉の酪農を取巻く環境の現状と将来」は大変有意義なもので、機会があれば酪農学園の教職員、学生が拝聴できればと思う内容でありました。

今後の同窓会連合会のあり方として同窓会の改革の柱である今回の規約改正により本会組織の合理化・財務の健全化、県支部、地域同窓会の整備・充実を計り「会員の相互の親睦」、「さらなる同窓会連合会の発展」と「酪農学園の発展に寄与する」を目指して行く所存でありますので皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

終わりにあたり、関東同窓会の益々のご発展と会員の皆様方のご多幸をご祈念申し上げます。

歴代会長・事務局長の回顧 ①

関東同窓会発足のキッカケ

初代会長 古田 修吾(短大創期)



関東同窓会の設立を発案したキッカケなどについて述べてみたいと思う。当初、酪農学園短期大学酪農科の開学(昭和25年開学)前は酪農学園大学部(昭和24年開学)として各種

学校であった。後で知ったことですがそもそも国際基督教大学(ICU)のような教育が目的であり、「基督教酪農大学」を設立する構想があったようだが、成立せずに終わった。

私はしばらくして酪農学園の評議員、後援会の評議員として学識経験者からの委嘱として在籍した経緯がある。その頃、東京に同窓会を結成したいと樋浦誠学長に相談を持ちかけたところ、大いにやりなさいと激励してくれた。早速、同期で都内の大学などにいる12、3人へ声を掛け、快く賛同してくれて、銀座のキリスト教会に集い、発足について縷々協議した。名称は、大学とすると一部のものだけの会になるので、「酪農学園関東同窓会」として、多くの学園出身者が参加できるものに命名することになった。

関東同窓会創立35周年 埼玉県支部と共催で開催

関東同窓会と埼玉県支部は、6月14日さいたま市別所沼会館において、各々の総会と、埼玉県支部は「シンポジウム」、関東同窓会は35周年記念式典を盛会に実施した。南雲会長は「ここまで活動を継続できたことは、ひとえに諸先輩が培ってきた人間関係、指導力にあり、この財産を伝承していくことが先輩に対する恩返しだ。35周年を機に心より感謝申し上げる。将来的には同窓会の活動を全国に伝えることと、酪農学園、同窓会連合会、地域同窓会に「提言」する機会として捉えていきたい」と挨拶。

また、初代会長の古田修吾氏が記念講演を行い、発足当時の苦労談が述べられた。来賓には、同窓会連合会野村武会長、各県支部長、前同窓会連合会高橋節郎会長、酪農学園大学谷山弘行学長、後援会永田享常務、同須田利明常務各氏を来賓に迎えた。

歴代会長・事務局長が表彰された。初代会長古田修吾、2代目会長八重樫鐵男、3代目会長故奥野誠、4代目会長野田修平、初代事務局長志賀文夫、2代目事務局長戸水雅智、3代目事務局長佐々木六朗、前同窓会連合会会長高橋節郎、「あるまめーと編集」志村智子の各氏。

昭和28年、発会式は銀座の喫茶店で酒拔きの質素な会合でスタートをきったのである。

以後、正式に「酪農学園関東同窓会」と認知されたのは昭和49年からである。雪印乳業健康保険会館に集い、会則や会費500円、事務局を雪印にお願いするなどを取り決め、東京都をはじめ首都圏に居住し、職場に通う酪農学園卒業生(酪農義塾、機農学校、高校、短期大学、大学など)の仲間達一体となり、呱呱の産声をあげることができた。

毎年総会を開くことが決議されていたが、諸般の事情により止む無く休眠せざる状態の

こともあった。その後、二代目会長に八重樫鉄男君(短大1期)へバトンタッチすることができた。

私は酪農学園に望みたいのは、同窓生の子弟は並みの学力があるならば、獣医学部など国家試験がある学部は別として、優先的に入学させてくれる制度があってもいいのではないかと思う1人であるが、どうだろう。

(本稿は関東同窓会35周年記念総会での講演から構成。東京支部懇談会、宗像雅輔氏(短大1期)の「酪農学園を卒えてから56年の軌跡」参照。)

歴代会長・事務局長の回顧 ②

初心を忘れず建学の精神を

2代目会長 八重樫鉄男(短大1期)

このたび会長時代の思い出について寄稿をお願いしましたところ、体調が思わしくなく創刊号への寄稿から抜粋で紹介することになりました。

「このたび発刊となりました会報は、同窓生の近況や母校の様子的一端が会員に広く伝えられて、同窓会のますますの発展の一助となればと願っています」。「私たち、酪農学園の卒業生は、一人ひとりの力は小さいが、北海道・野幌の母校で学んだ建学の理念、「三愛」「健土・健民」の思想を忘れずに、力を合わせて母校の繁栄に貢献できればと願っています」。(本稿は創刊号1994年7月発行抜粋)



歴代会長・事務局長の回顧 ③

関東同窓会の大同団結へ

初代事務局長
志賀 文夫(短大1期)

昭和62年の関東同窓会の席上で、酪農学園遊佐孝五理事長より「大同団結」のお言葉があり、早速スタートへ向かいまし



た。取決め、段取りなどについて、第2代目の八重樫鉄男会長(短大1期)を中心として小生が事務局を担当し、まず、各学部の卒業生のリーダー格で拡大委員会を結成、関東圏を全国の核として固める作業から取り組むこととしました。

小生は、現状把握の目的で新宿区の酪農学園東京事務所兼同窓会事務局の香味昭氏(故人)から、名簿の資料を受けましたが、同窓会関係の資料は不備が多く、同窓会連合会(本部)の木村敏雄事務局長から資料を貰い、今般の大同団結の協力要請をしたところ快く諒解され今後の進展に多いに力となりました。

実態が見えてくるに従い、方策も具体化してきました。獣医学部の同窓会が全国組織化されており、この組織を活用し基礎とすべく木村事務局長を通じ、牛島純一先生に声を掛けていただき、関東地区は唐仁原景昭氏(現新潟県在住)を中心として協力いただき、具体的な行動を起こしてもらうことができました。

一方、各学部担当委員も同窓生に声を掛け、官庁、各企業、自営者などから時には月2回の拡大委員会を開いて、状況の報告をまとめ、自発的協力者も現れ、全体として形が見えてきました。各委員は実務をもちながら献身的な努力で目的に向かって活動している姿をみて「三愛精神」が生かされ

ている現実をみて涙が出るほどの感動の連続でした。本当に頑張ってくれました。

一方、香味氏(故人)が定年となり天田輝久(故人)事務所長が後任に着き、我々の活動に超人的で密度の濃い協力をしてくれました。

八重樫会長と小生は、野幌時代ダビデ寮に住み、野球でバッテリーを組んだ仲で(彼は捕手)、息もピッタリ合っていました。かくして新しい組織と園内の団結機運が高まり、平成2年、学園から学長はじめ諸先生、高橋節郎同窓会連合会長らをお招きし盛大に総会が開催され、初期の目標が一応達せられたわけです。

この間、協力してくれた諸先生、連合会事務局、そして実務にかかわった諸先輩、卒業生に深く感謝申し上げます。平成4年、小生は定年で雪印を退職しましたが、後任には広範にわたり経験豊かで優秀な戸水雅智兄に引継ぎました。

木造平屋の校舎で建学の精神を、情熱あふれる樋浦誠学長と体の触れ合った教育で私達を指導してくれた母校が今や壮大なキャンパスと充実した内容のある酪農学園に成長し続けていることを誇りに思い、学園と同窓会は車の両輪であることを自覚し、学園の発展に力を合わせて貢献したいと願っております。(群馬県支部顧問)

歴代会長・事務局長の回顧 ④

記憶に残る案件と期待

2代目事務局長 戸水 雅智
(短大3期、機農高8期)



めでたく酪農学園関東同窓会が設立35周年の記念すべき年を迎えられ、埼玉県支部と共催でシンポジウムに続いて記念式典が行なわれ、式典では感謝状並びに記念品を頂戴し申しわけない思いで

一杯です。紙面をお借りし、改めて厚く御礼を申し上げます。

先般催された東京支部総会、懇話会では、

酪農学園関東同窓会役員名簿

(任期 平成20年4月～22年3月)

会 長

南 雲 良 三

短大8期(埼玉県支部相談役)

副会長

岡 田 勉

酪農学科2期(千葉県支部顧問)

五十嵐 建 夫

農経学科3期(東京都支部副支部長)

後 藤 久 雄

機農農経1期(埼玉県支部長)

福 山 二 仁

獣医学科3期(東京都支部長)

齊 藤 達 夫

酪農学科4期(栃木県支部事務局長)

事務局長

中 島 剛

酪農学科3期(東京都支部副支部長)

事務局次長

渡 会 福次郎

酪農学科3期(埼玉県支部事務局長)

会 計

平 岡 征 雄

農経学科3期(神奈川県支部長)

理 事

野 田 修 平

短大6期(東京都支部顧問)

益 子 勲

酪農学科1期(栃木県支部長)

三 田 孝 幸

獣医学科6期(群馬県支部長)

高 橋 僚 一

酪農学科1期(山梨県支部長)

石 月 晋

酪農学科1期(新潟県支部長)

増 田 澄 夫

酪農学科5期(千葉県支部長)

小 松 泰 史

獣医学科14期(白樺会の代表)

平 山 久

短大6期(栃木県支部副支部長)

小 浦 隆 文

酪農学科13期(千葉県支部理事)

西 井 義 昭

短大13期(東京都支部監事)

安 達 宗之介

酪農学科3期(神奈川県支部副支部長)

田 中 道 明

酪農学科17期(神奈川県支部副支部長)

大 津 初 司

短大16期(群馬県支部副支部長)

上 野 達

短大10期(茨城県支部副支部長)

古 橋 治 巳

獣医学科4期(茨城県支部事務局長)

水 谷 淳

酪農学科4期(埼玉県支部副支部長)

斎 藤 洋

農経学科5期(神奈川県支部事務局長)

渡 辺 仁

酪農学科21期(山梨県支部事務局長)

須 田 利 明

機農農経1期(後援会常務理事)

佐々木 六 朗

短大11期(『あるま・めーと』編集長)

志 村 智 子

短大33期(『あるま・めーと』編集)

野 島 加代子

三愛女子7期(埼玉県支部副支部長)

角 真知子

三愛女子9期(神奈川県支部)

田 中 可 子

三愛女子8期(東京都支部副支部長)

理事・監事

藤 村 翼

酪農学科2期(神奈川県支部顧問)

小 宮 俱 子

獣医学科1期(埼玉県支部理事)

顧 問

八重樫 鐵 男

短大1期

草 地 道 一

短大1期

戸 水 雅 智

短大3期

学園の「取組み中の課題」についての説明があり、感じたことは、高校、大学を問わず、ここ数年受験生が様変わりに減少しているということであった。

このことは、私たちが長年気にしてきたことで、現実の問題としてのしかかっているという。そして2000年12月の年の暮れ瀬を思い出した。

当時の天田輝久東京事務所長から、東京事務所は戦後間もなく開設され、多くの働きをしてきたが閉鎖問題が提起されているという。提案者は同窓の理事者で、首都圏在住の同窓生に説明ないまま、閉鎖に同意する理由が見当たらず、もんもんとしていた矢先、上京して説明するとのことで当日を待った。

説明者は、同席の天田所長に席を外させていわく、東京事務所は費用がかかり過ぎて合理化が急務という一点であつた。八重樫会長と2人で説明を受けたが、東京事務所が、今後、首都圏で果たさなければならない使命と目的の認識は薄く、一方的な説明に終始した。

この対応について、2001年1月、伊東市のヤクルト研修センターで催された拡大役員会で協議、意見の集約を行い、結論を平尾理事長に郵送することも考えられたが、ことの重要性から直接請願することで、急遽、八重樫会長と2人で学園を訪れ平尾理事長にお会いした。

理事長も少子化傾向や就農人口の減少といった事態に、地方での受験生の確保は容易ではなく、道外、特に首都圏に募集枠拡大の必要性を理解されながらも、東京事務所の将来構想までは持ち合わせておられなかったようで、議案の取り下げには難色を示され、即答は得られず、間をおいて理事長上京の折に面談する機会を作っていただいた。

その席でも、今後、東京事務所の果たさなければならない役割を改めて申し上げるとともに、学園内外への情報発信基地としての必要性、顧客対応の窓口（受験生、就職先の開拓とフォローアップ、学内外への広報等）、

加えて、時流に載った学園から発信される情報の少なさ等も申し上げ、廃止することは将来に禍根を残すと、改めて、再考をお願いした。

併せて、廃止の大きな理由に費用が嵩み過ぎるといことだったので、すぐには出来ないまでも、将来的には同窓生に応分の費用負担を募って事務所費の一部負担も申し上げ、東京事務所の役割の見直しと、学園を積極的に告知する場としての改革策等の検討もお願いした。このことについて、理事長から改めて連絡するとのことでお別れした。

早春の理事会当日の朝、理事長から電話を頂き、閉鎖問題は議題にしないとのことで、約半年続いた騒動は終結された。

昨今の新聞報道によると早稲田・慶応・日大といった名門大規模校は受験・入学生とも増えているという。反面、特色の少ない大学や地方の大学は苦戦を強いられていると記されていたが、まさにそのとおりで、酪農学園も厳しい現実さらされていることを思うと、卒業生の妙薬があれば近くの同窓会なり学園に提起してほしいと思っている。

過ちは恐れずに足らず、特に子弟教育に直接携わって先生方や職員の皆さんには、新しい発想と改革意識を持って積極的に取り組んでほしいと願う昨今である。時流に載った研究成果の発表は必然的にマスコミに取り上げられるし、学んでみようとする受験生の関心事となることを信じて止まない。（元後援会常務、関東同窓会顧問）

歴代会長・事務局長の回顧 ⑤

建学の精神発揮で 社会貢献を

3代目会長 故奥野 誠(酪農1期)

奥野氏は2005年12月7日他界しましたが、以前の「あるまめーと」への寄稿から抜粋で紹介します。

「1995年は我々の想像を絶する事件が続きました。阪神大震災は5,500余名の死者と建物の崩壊を起こしました。しかし、自然災害というのは人間同士が助け合い、また

関東同窓会平成21年度事業報告

(自:平成21年4月1日～至:平成22年3月31日)

2009. 7. 24 作成

1. 4月6日(月)13:00～／同窓会連合会理事会 出席者: 南雲会長、後藤副会長。
2. 4月16日(木)15:00～／監査委員会 平成20年度会計監査実施 於: 東京事務所 藤村翼、小宮俱子監事により実施
3. 4月16日(木)17:30～19:00
 - ・出席者: 南雲会長、五十嵐・福山各副会長、須田・平山・田中(道)・佐々木(六)・田中(可)各理事、藤村・小宮各監事、渡会事務局。
 - ・関東同窓会総会提出資料の検討
 - ・関東同窓会設立35周年記念行事について 時間割調整及び記念品(壺: 寺尾氏作成)外箱(担当: 佐々木氏)表彰状。
 - ・あるまめーと記念号: 佐々木(六)氏より説明。(議事録参照)
4. 4月25日(金)15:00～／群馬県支部総会 出席者: 南雲会長、後藤副会長、福山副会長。
5. 5月7日(木)12:00～
 - ・出席者: 南雲会長、後藤副会長、佐々木理事、須田理事、中島事務局長。
 - ・関東同窓会総会(35周年記念式典)準備: 案内文・総会資料。

6. 5月17日(日)11:00～／山梨県支部総会／出席者: 南雲会長、後藤副会長、福山副会長、平岡会計。
7. 5月28日(木) 酪農学園後援会総会／出席者: 南雲会長、後藤副会長、福山副会長、石月新潟県支部長。
8. 5月29日(金) 同窓会連合会総会及び酪農学園常任理事会懇談会 出席者: 南雲会長、
9. 6月14日(日) 埼玉県支部総会・関東同窓会総会及び35周年記念式典<歴代関東同窓会会長・事務局長及び貢献者表彰される>(敬称略: 古田氏・八重樫氏・野田氏・志賀氏・戸水氏・佐々木氏・高橋氏・志村氏)
10. 6月21日(日) 酪農学園大学フェア: 出席者: 南雲会長、福山副会長、田中理事
11. 6月24日(水)／白樺会総会 出席者: 福山副会長
12. 7月11日(土)／新潟県支部総会 出席者: 南雲会長、後藤副会長、福山副会長、平岡会計。
13. 7月23日(木)14:00～16:00(於東京事務所) 「あるまめーと」編集委員準備会開催 出席者: 佐々木理事(編集長)、須田理事、五十嵐副会長、中島事務局長
14. 8月8日(土) 東京都支部総会
15. 9月6日(日) : 白樺会セミナー
16. 9月12～13日: 埼玉県支部家族キャンプ
17. 10月3日(土): 関東地区高等学校合同同窓会
18. 10月18日(日): 神奈川県支部総会
19. 12月2日(日): 関東同窓会役員会

株式会社ゼンチク販売

酪農 13 期

代表取締役
社長

川上 幸二

〒140-0001 東京都品川区北品川1-8-11
ダヴィンチ品川Ⅱ 8F
TEL. 03-5783-7401(代表)
FAX. 03-5783-7410

酪農 1 期

酪農学園同窓会連合会山梨県支部長
昼間のうどん屋<定休日 水・木>
水墨・墨彩画教室

墨游庵 高橋 僚一

〒408-0036 山梨県北杜市長坂町中丸2, 105-1
Tel. 0551-32-3076

獣医師

佐藤 至

ITARU SATO

アミーペットクリニック

〒164-0002 東京都中野区上高田2-54-8
TEL. 03-3389-7860 FAX. 03-3389-7859

獣医 19 期

ケペル動物病院

院長

獣医師 大橋 透

〒165-0027 東京都中野区野方6-6-2
tel. 03-3338-3554

獣医 15 期

株式会社 ライフクリーニング

営業部長 平岡 征雄 農経3期

綾瀬市吉岡東1-15-20
電話(0467)70-3044
FAX(0467)70-3044
携帯090-3521-5724

新ゆりがおか動物病院

獣医 14 期

獣医師 小松 泰史

〒206-0823 東京都稲城市平尾2-9-6
tel. 042-331-5731 fax. 042-331-8508

復興する望みがあります。それに比し地下鉄サリン事件のような人為的な社会不安は現代人の心の病を見る思いがします。

このような社会情勢のなかで忘れてならない人づくりは、酪農学園の「健土・健民」の恩恵であると思います。根から健全な人づくりであります。酪農学園がますます建学精神の真価を発揮し、社会に有益な人間を送り出してほしいし、我々同窓会も同じ学び舎で学んだ後輩を毎年受け入れて、語り、協力し合って社会に貢献して行きたい」(1995年7月発行の創刊第2号から)。

第3代目会長就任に当たり「同窓会に期待し集まるのは人それぞれであります、酪農学園の同窓会は「建学の精神」即ち、三愛精神＝神・人・土を愛する思想の基で学んだ同志が年代を超えて集まることに他の同窓会にない特徴があると考えています。酪農学園同窓会の主旨に、生涯教育があります。単に親睦の同窓会ではなく、学園の発展とまた卒業後の我々も生涯、建学の精神の語り合い、また後輩に伝えていきたい」(2002年8月発行の第9号から)。

歴代会長・事務局長の回顧④

永遠不滅の学園構築へ

第4代目会長 野田修平(短大6期)

はじめに、関東同窓会創立35周年を迎え皆さんと共に慶びを分かち合いたく思います。また記念会報発刊にあたり、学園へのメッセージを求められ、思案致しましたが、一言記述いたしご批判をいただくことにいたしました。

■永遠不滅の学園を切望！！

多くの組織は創立50周年までは何とか創立の精神・理念が受け継がれ発展しますが、次の節目の100周年を越え発展する組織は少ないようです。それは創立の精神の風化、規模の肥大化、変化対応力の不足、役職



員の力の分散等がその要因と思います。

学園は創立以来、幾多の試練を乗り越え、76周年を迎え次の通過点100周年に向かって、きわめて厳しい歴史を刻んでおります。1980年発行の酪農学園史序文の一端に、佐藤貢元理事長の次の言葉があります。

「国には興亡の歴史があり、事業には常に盛衰がある。立派な理想に燃えて努力する国民は栄え、之を失えば衰亡する。私学の盛衰もまたしかりで、要は人にある」…と。学園の未来は、この訓示とも言える言葉に尽きると思いますが如何でしょう。

しかし、近時理想に燃え一致団結努力する学園風土が薄れ、学内報等で学園の危機を訴える記事が流れる等、学園の未来を心配する同志も多いと思います。そんな危機に迎え、2007年、偉大な指導者、麻田信二様を理事長に迎え新生酪農学園が発足。目下新理事長を中心に鋭意改革の最中にあると伺い、心より感謝致すと同時に陰ながら出来る限りの支援を続ける所存であります。

改革には反対があり、犠牲が伴うもの、役職員の労苦は多いと思いますが、どうか小異を捨て大同に着き一致団結して、永遠不滅の学園を構築される様切望して止みません。(関東同窓会理事)

HPで「健土・健民」の教訓実感

山梨県支部副支部長 平島 勝教(獣医7期)

関東同窓会創立35周年おめでとうございます。わたしは、昭和49年3月に酪農学園大学の酪農学部獣医学科7期生を卒業した山梨県支部で副会長をさせていただいております平島です。

山梨県支部の平成21年度の総会が5月17日に酪農学園同窓会連合会の野村会長、関東同窓会南雲会長、後援会の永田常務理事、埼玉県支部の後藤支部長、谷山学長の各氏の出席をいただき無事終了しました。遠路から出席いただき本当にお疲れさまでした。他県の支部に比べて、やっと歩き始め

たというところでしょうか。

昨年、卒業35周年の同窓会があり、酪農学園大学や野幌周辺に行きましたが、その変わりように驚かされました。学生時代を振り返りますと、野幌駅南方(レンガ工場周辺)の道路は、まだ砂利道で凹みに水たまりができて、車の往来には気を遣いました。

大学の校舎は木造から鉄筋コンクリートへ、牛舎もモダンとなり今の学生は羨ましくもなりました。何といっても建物周辺の芝生(牧草地)が美しく、シンガポール旅行を思い起こしました。

わたしは現在、山梨県酪農試験場に勤務しております。現在の試験・研究は全国的に資金・人材・施設不足など厳しい環境にあり、酪農家や肉牛農家の負託応えることが難しくなっておりますが、きめ細かな対

応に努めております。

ところで、今年の4月に私の息子が本学の獣医学科に入学しました。入試に際して大学のHPを見て、黒澤酉蔵先生の「健土・健民」が現在でも教訓として生きていることを実感しました。一方、われわれの学生生活と違って物価は上がり、まして獣医科は6年制となり家計費が増し、私の定年も残り2年半。「働けど働けど我が暮らし楽にならず」というところでしょうか。

終わりに、関東同窓会のますますの発展と皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。

支部活動について ネットワークづくりを濃密に

新潟県支部長 石月 晋(酪農1期)

酪農学園同窓会栃木県支部

酪農1期

会 長 益 子 勲

〒321-0135 宇都宮市五代三丁目5-43
tel. 028-653-9613

酪農学園同窓会栃木県支部

獣医3期

副会長 荒 井 徹

〒329-2707 栃木県那須塩原市高柳2-106
tel. 0287-37-1289

酪農学園同窓会栃木県支部

農経13期

副会長 後 藤 栄 一

〒329-2732 那須塩原市1区町288
tel. 0287-36-0051

酪農学園同窓会栃木県支部

酪農6期

副会長 桑 島 信 也

〒321-0135 栃木県宇都宮市五代3-7-18
tel. 028-653-2625

酪農学園同窓会栃木県支部

短大6期

副会長 平 山 久

〒325-0044 栃木県那須塩原市弥生町3-15
tel. 0287-63-1669

酪農学園同窓会栃木県支部

事務局長 齊 藤 達 夫 酪農4期

〒321-0404 栃木県宇都宮市芦沼町2762
tel. 028-674-2119

はじめに関東同窓会創立35周年おめでとうございます。新潟県支部は平成19年に設立したばかりで、今後どのように発展できるか大切な時期を迎えております。

本県支部活動で一番の問題点は、活動資金が不足していることです。各支部総会の案内をいただいても予算がなく、出席すれば自己負担となるのが現状です。この現状を同窓生によく理解してもらい会費を多くの人に納めてもらう方策を立てることが第一と思われまふ。

このためには、同窓会活動の意義について理解してもらう必要があると思ひます。同窓会活動の利点の第一は、ネットワークを広げることが簡単にできる組織だと思ひます。卒業生は多方面で活躍されており、自分の仕事についての助言や、困ったときにお願ひに行けば、助けてくださることも多いのではないのでしょうか。

つぎに支部活動の重要事項として、受験生を送ることが言われております。18歳人口の急激な減少に加え、酪農家の減少、卒

業生の進路など様々な要因が考えられます。われわれ卒業生は、背中に学園出身である看板を背負っており、受験生の数も増加の方向に向かうのではないのでしょうか。しかし、現実には厳しく速効に効果のある方策が求められておるようです。

最後に、支部活動の活性化には、身近な同窓生のネットワークをより濃密に作ってゆくことが大切と思ひます。特に本県のように細長く、広い県においてはどのような方法があるか考えてきましたが、その一つとして「ブログ」の作成を提案したいと思ひます。「ブログ」により、発信と会員の皆様の意見を受けられますし、多数の皆様の考え方を聞くことができ、より建設的な支部活動ができるのではないのでしょうか。

同窓会連合会存続に思う

埼玉県支部長 後藤 久雄(機農・農経1期)

関東同窓会創設35周年を迎え、この歴史を刻んだ、先人達のご尽力に感謝すると同

後援会からのお願い

皆様の青春の学舎『酪農学園』は、建学の精神と教育目的に沿って酪農学園大学・酪農学園大学短期大学部・とわの森三愛高等学校を擁し、豊かな人間性と高度な学問を備えた時代をリードする人材の育成に取り組んでおります。

酪農学園後援会は、こうした酪農学園の教育交流事業を支援する公益法人として、これまで長年にわたり卒業生をはじめ企業・団体など、多くのご理解ある方々の温かいご支援を受けて、その浄財を学校施設・設備の充実、また、国際交流教育事業など多様な支援活動を行って参りました。近年の経済・金融情勢の悪化による基金の果実収入が激減し、助成事業を縮小させざるを得ない状況にありますことから、新規会員加入を募集しております。どうぞ、未加入の同窓生には、事情をご賢察のうえ、会員として支援くださるようお願い致します。



※維持会員：年1口5,000円(何口でも結構です)

※問い合わせ先：当後援会または学園東京事務所内

Tel03-3508-8951 Fax03-3508-8953

財団法人酪農学園後援会

〒069-8501 江別市文京台緑町 582

Tel011-386-1195 Fax011-386-4541

時に、これからの継続に対し緊張を感じさせられます。

同窓会の存続について述べてみたいと思います。第一に、今は各々立場の違う同窓生(単位同窓会)であっても、青春時代に野幌の地で学んだ同じ仲間であるということです。

酪農学園の創設者は北海道の酪農の父と呼ばれる黒澤酉蔵先生であり、宇都宮仙太郎先生等などの先人であります。黒澤先生は、足尾鉾毒事件の田中正造さんに心酔し、のち「国土第一主義」を身をもって体験しようとして酪農を始め、自らの思想を「健土健民」という四文字に凝縮されております。この教育の旗の下に集まった若人達が同窓会連合と再認識し、円卓を囲み一人一人が学園の思い出話にふけることを忘れてはならないと感じています。

第二は、総会の案内などで限られた書簡を同窓生に送付いたしますが、事務局等は返信されることを期待すると同時に、近況や消息を確認いたしたく発送しておりますので、必ず返信にご協力いただきたい。個人情報守秘には努めていますのでご協力ください。

第三は、財政問題があります。各支部総会に出席し、決算状況の中身を拝見すると、健全財政で運営している支部は何処にもありませんし、関東同窓会への負担金の捻出に苦勞しているのが現状です。

それぞれの支部同窓会への年会費納付が必須条件で、現状は同窓会の規模にもより、予算に差異がありますが、各支部の経費を概算してみると、一人当たり事務通信費200円、関東同窓会負担金0～300円、旅費交通、祝金費200～1000円、会議費、助成金等諸経費150～500円で合計¥600～2000円(対象同窓生100～500名規模)で納付率が10%不足ですので運営に苦慮しているのが現状です。規模の小さい支部でも、九割以上の納付であれば会費1000円以下で健全な収支が望めますので、同窓生皆様に同窓会連合会存続に協力とご理解

を、お願いしたいものです。

最後に、野幌原始林を背景に三愛精神を酪農学園のキャンパスで学んだ仲間と共に、憩いの場として、懐かしい思い出話をしようではありませんか。

(同窓会連合会理事、関東同窓会副会長)

埼玉県支部 家族親睦キャンプ

—卒業生と共に同窓会活動に参加させていただくことに感謝しつつ—

貴農会 今井紘子(旧姓安達)

埼玉県支部では、南雲前会長の発案で、毎年9月中旬に神川町の旧神泉村地内において1泊2日の親睦キャンプをおこなっております。今年で13回目になります。場所は埼玉国際ゴルフクラブの直ぐ下のペンション「ウエンテラー(こちら語で上の平の意)」を1晩借り切り、200坪くらいの庭にブルーシートや単管でテントを張りバーベキューを中心に餅つきやうどん打ち、花火大会などで夜遅くまで老若男女が語らいます。爺々たちは早々と就寝し(ペンション内の部屋で)、私たち若者?は飲みかつ語らい、子供たちも花火、餅つき体験など一大イベント会場となります。2日目は近くの醤油、豆腐直売所を見学し、昼はそば打ち道場でそばうち体験をし昼食をとり解散というのが最近の定番となっています。

来るものは拒まず、去るものは追わず。思想、宗教を持ち込まず、語らいのサロンとして、ひと時、昔話に花が咲き夜の更けるのも忘れ語り合い親睦を深めるわけですが、私も主人(獣5期)が同窓会地元主催者のため初回から参加させていただいております。地元としては、皆さんが無事、楽しんで帰られることが一番の喜びです。

この場所に定着するまでは紆余曲折があり、2～3キャンプ場を変えてみたりしましたが、バンガロー代が比較的高く、また、軽トラック一台分の器材の当日持込み翌日即片付けなど、非常に忙しく「なまらあずまし



くない」ため、主人の知り合いの伝でここに設営した次第です。

参加者は毎回40名近く居りますが、6割がた道産子ではないかと思われます。半数の方は日帰りします。常連は私たち夫婦の他に、毎年会場設営に協力して頂く新井牧場ご夫妻(卒業生の父兄)、餅つきの臼や米など提供していただく秩父の浅見隆男さん(酪9期)や買出し係の中心の細渕ご夫妻(獣9期)、いつも3世代で協力していただく後藤会長(機農々経1期)のご家族、太田屋牧場(酪18期)のご夫妻と3人の娘さん達などが初回からの常連で、6回目から参加された渡会さん(酪3期)を中心にこの会を維持してくれています。そして、県外からも色々な方々が毎年入れ替わり参加されていますので、旧知の方々や思いがけない人々との出会いも多々ありました。

しかし、会も13回にもなると内容も毎年同じようでもマンネリ化しつつあります。子供たちも年々成長し、初回時まだ小学生だった太田屋家のご長女も今年ご結婚されたそうですし、他の子供達もクラブ活動などそれぞれ忙しくなってきたり参加も難しくなってきたりしています。私たち地元の間も高齢化し、準備、片付けの中心となる女性陣も年々参加者が減る傾向にあり、そろそろ違った形、違った場所での何か新しい事を検討していただく時期に来たのではないかと主人や地元の方々とも話題にあがる昨今です。

埼玉県支部「酪農シンポジウム」盛会に

埼玉県支部 今井賢太郎(獣5)

さる平成21年6月14日、さいたま市において開催された埼玉県支部総会、関東同窓会35周年記念総会のおり、記念事業のひとつとして青木雄治氏の基調講演「牛一筋」と、埼玉県在住の現役酪農家4名によるパネルディスカッション形式の酪農シンポジウムが行われました。司会は私が担当し、演題は「埼玉の酪農を取り巻く現状について」であり、結果的に酪農学園などに対し何かしらの提言ができれば喜ばしいとのことで後藤支部長が発案されたものです。

パネリストは、当初は苦勞しながらも現在は素晴らしい経営をされている青木雄治(機農)、亀田康好(機農)、龍前浩史(酪農)、吉田恭寛(機農)の4氏です。埼玉県でも、高齢化、飼料高騰、乳価低値不安定などの要因で年々酪農家戸数、頭数とも減少の一途を辿り、平成10年には約700戸で約2万頭であったのが現在では約350戸、約1万5千頭という状況です。

■全国レベルの経営者揃い

そのような厳しい状況の中でも4名の皆様方は地域の特性を良く生かしトップクラスの経営をされているだけでなく、地域の中心的リーダーとして酪農・牛乳の素晴らしさを消費者や子供たちに発信され続けています。

青木さんは利根川の河川敷を上手く利用し約20haの草地を耕作され、2人のご子息も酪農学園卒業後家業を継がれ、本人は酪農組合長や埼玉県酪農協会の会長など要職をこなしながらも平均乳量1万kg以上の牛群50頭を飼育し、エクセレント牛を何頭も輩出しています。

亀田さんも約40頭飼育の傍ら、何度もホルスタイン全共に出品、入賞するだけでなく、内閣府の専門委員として酪農教育ファームやわくわくモーモースクールなどを通じ消費者や子供たちに酪農に対する理解や牛乳の

消費拡大にご尽力されています。龍前さんも、青木さんと同じ組合員として、粗飼料の自給を目指し、草地25haを耕作し、地に足を着け約50頭を飼育しています。糞尿処理などに関し斬新なノウハウをお持ちです。吉田さんは秩父郡という耕作地の少ない、酪農にとってはあまり立地条件の良くないところで50頭を搾乳され、肥育もされています。また、ログハウス「ちちぶ路」でレストランを運営されています。

上記のようにざっと略歴を披露しただけでも皆全国レベルの一流の方々と、我々も同窓生として誇りに思っております。

■消費者へ活発な啓蒙活動

皆さんがパネルディスカッションにて発言された内容は大変重みのあるものでした。なかでも印象に残るのは「ホルスタインを絶滅危惧種にしないほしい」「酪農を十勝、北海道だけの特産にしたい」「食育や酪農教育ファームなどやわくわくモーモースクールなどのような子供たちや消費者とのふれあいを通じた啓蒙活動に、学園こそ積極的に取り組むべきである」。など、有意義なご意見を多数いただきました。

最後に、埼玉県支部顧問の北村直人氏(獣

4期)から講評をいただき、「厳しい条件の中で黒澤西蔵イズムを埼玉の地において実践されている方々で酪農学園としても誇らしい。4名の黒澤西蔵翁を目の当たりにしたような感がある」。と絶賛されておりました。

同窓生の方々からも、身近でできるところから酪農の発展に少しでも協力し、酪農家を少しでもバックアップしたいという気運も感じられました。

当日は行事が盛りだくさんで時間に制約される中、なおかつ生き生きと語られる酪農家の皆さんを拝見しますと、得てして定年後の親睦会のように走りやすい同窓会の中にあっても、現役の方々の参加と真剣なご意見が同窓会活動をより活性化させる可能性を示し、参加者の皆様にも大変好評でした。

群馬県支部の歴史と問題点

群馬県支部長 三田 孝幸(獣医6期)

6月に関東同窓会創立35周年記念総会に出席しました際に、関東同窓会の設立時の苦労話を聞かせていただき大変参考になりました。

群馬県支部は、平成7年から準備を始

太田屋牧場

酪農19期

太田屋 進

〒351-0033
埼玉県朝霞市浜崎390-27
tel&fax 048-456-1852
Email ootayafarm@yahoo.co.jp

祝 創立35周年

KVS CO.LTD 今井家畜診療所

児玉家畜ETセンター

代表 今井賢太郎(獣医 5期)

〒367-0253 埼玉県本庄市児玉町河内858-1

Tel:0495-78-0241 fax:0495-78-0509

- 和牛体内受精卵の生産・販売(宅配可)
- 牛体内受精卵の出張採卵(北関東のみ)

庭 快適環境創造

酪農4期

希光緑化株式会社
作庭・緑化・管理

水谷 淳

【川越事業所】〒350-0011 埼玉県川越市久下戸3371-1
専用電話 090-3105-8979
電話 049-236-0862
FAX 049-235-8684

有限会社ハラダエンジニアリング
一般住宅塗装・内装工事

代表取締役 原 田 國 明

連続繊維施工士

〒194-0022

東京都町田市森野5-3-32

tel&fax 042-727-2924

(携帯)090-7173-9792

機農・農経6期

め、平成8年2月17日に設立総会を前橋市の群馬県厚生年金会館で行い、初代会長に須田哲生会長を選出し、平成9年には群馬JAビルにて酪農公開講座の開催に協力いたしました。

その後、前橋市JA群馬研修センターで平成9年7月26日第2回総会、同所で平成12年2月26日第3回総会を行い、平成15年9月6日嬭恋村仙人亭においてバーベキューと第4回総会を行いました。

平成18年2月、前橋市JA群馬研修センターにて第5回総会を行い、第2代会長に村田文男会長を選出。そして、平成21年4月25日の第6回総会にて私が選出され現在に至っております。

群馬県支部の一番の問題点は、先代2名の会長の努力にもかかわらず、総会の出席、会費納入がままならないことです。酪農学園卒業の群馬在住の方の酪農学園同窓会への協力、総会の出席、会費の納入をお願いいたします。

群馬在住の同窓生をご存知の方は同窓会への出席を奨励していただき、また、この問題解決の秘策についてなにとぞご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

「専門知」と「経験知」の学園ネットワークを

東京都支部支部長 福山 二仁(獣医3期)

1933年黒澤酉蔵先生が、三愛精神に根ざした「健土健民」の建学精神を唱えられ創立した酪農学園は、4年後の2013年創立80周年を向かえますが、建学者、黒澤酉蔵先生の精神が現在まで脈々を受継がれ、酪農学園の根幹であることは、他に類を見ない学園であると考えます。

時代の大きな転換点である現在、さまざまな価値観や知識・技術がダイナミックに変化しており、中期的な見通しを模索するにも難しい環境にあります。また、「食」を取り巻く環境は「安心」「安全」はもちろんのこと国産志向が顕著となってきております。

このことは、黒澤先生が提唱された「健土健民」の精神が具現化され、「食」を主体とする産業以外にも、すべての産業においてその広がりが求められている時であると認識されます。

このような時代であるからこそ、黒澤先生の建学の精神に意識的に立ち戻り、学園・同窓会が一帯となってさまざまな自己改革に挑んで行く必要があります。酪農学園の特色の一つに、一時代を共に野幌の地で過ごしたことを原点とする母校愛、そして同窓生間の緊密なコミュニケーションにあります。

同窓会活動は除々に組織化され、その活動内容も懐古趣味に陥ることなく未来を志向し、社会への貢献・働きかけをも重視するものとへ変化してきております。さらには、生涯教育を学園を通して充実して行きたいとの希望も出てきております。

このように同窓会活動の高質化が志向されている今、知の集積である学園の知財と同窓生の経験知を共有化することが求められています。

パソコンの世帯普及率が70%を越えインターネットの世帯普及率も60%以上に達し、IT技術がごく身近になった今、コミュニケーションのあり方も変化し、さらには緻密なコミュニケーションがインターネットを通じて可能となってきています。ネットワークを通じて、学園が持つ知的価値と同窓生が持つ社会的経験・豊富な情報やノウハウがインタラクティブに共有され、さらには、新たな知的価値の創造や一般社会との関係強化が図られるものと考えます。

学園ネットワークの目的・課題としては、学園と社会の融合を基本的な考え方とし、学園が蓄積してきた知識、同窓生の豊富な社会経験や最先端知識を融合し、新たな知的コングロマリットを形成することを目的として、また、進化し続ける技術を利用し、誰にとっても分り易く使い勝手の良いネットワーク技術の開発を行うことが課題となります。

すので、早急にシステムの構築を検討お願い申し上げます。

「専門知」と「経験知」の学園ネットワークは、酪農学園が持つ「三愛精神」をバックボーンとした「健土健民」「循環農法」「有機農法」と社会との新たな関係を構築し、その融合によって人間の生涯にわたる発展のあり方をリードしてゆくことにあると考えます。

(編集注) コングロマリット (conglomerate) は直接の関係を持たない多岐に渡る業種・業務に参入している企業体のこと。複合企業とも。主に異業種企業が相乗効果を期待して合併を繰り返して成立する。

栃木県支部に想う

栃木県支部長 益子 勲(酪農1期)

私が昭和39年3月学生生活を終えてサラリーマン生活に入ったのはここ栃木の地でし

た。のち2年後から22年間、東北、北海道にあった関連会社の工場を転々とし、昭和63年に戻って本社勤務となり現在に至っています。

この間、転勤しているあいだは同窓会ができていなかった県もあって繋がりがなく、栃木県に戻って初めて誘いを受け入会しました。昭和一桁代の短大卒の大先輩から、とわの森三愛高校卒の若い諸君まで、400名を超える卒業者が県内に在住していることを知り驚きでした。その名簿を見て自営酪農家が100名近くいることに二度びっくりでした。あとで聞くと地元で高校の教諭になった同窓生が酪農学園への入学に尽力したことを聞き納得しました。

さて、栃木というと、まずは世界遺産に

酪農学園同窓会連合会 会長 野村 武



〒069-8501
北海道江別市文京台緑町582
電話 011-386-1196
FAX 011-386-5987
E-mail: rg-dosok@rakuno.ac.jp

イタリアンレストランチェーン 酪農2期 世界最大800店

監査役
岡 田 勉

株式会社サイゼリヤ
〒342-0008 埼玉県吉川市旭2-5
TEL. 048-991-9611 FAX. 048-991-9637
携帯: 090-7265-6664
E-mail: T.Okada@saizeriya.co.jp

アイスクリーム SINCE1991 hand made 上 野 達

農事組合法人 新利根協同農学塾農場
茨城県稲敷市市崎2381
tel&fax 0299-79-2733

短大10期

クリーン農業への貢献 酪農2期 株式会社オホーツク大地 有機肥料販売

代表取締役 笹川 和 廣
携帯 090-3118-8703

本社 090-0838 北見市西三輪3丁目752-62 常広支店 080-0027 常広市西17条南5丁目41-6
TEL (0157) 36-0429・FAX 36-0205 TEL (0155) 33-4633・FAX 33-4817
E-mail: okhotsk@clean-daichi.jp 営業所及び拠点
http://clean-daichi.jp/ 旭川市・釧路市・恵庭市・豊富町

SHINJUKU VETERINARY CLINIC 新宿動物病院 院長 高橋 恒彦 獣医18期

本院: 東京都新宿区新宿7丁目11番5号けやきハウス2F
Tel 03-5272-1323(代) Fax 03-5272-1878
豊島分院: 豊島区南長崎2丁目21番9号オーシャンナイン
Tel 03-5982-1377(代) Fax 03-5982-1366

食品の衛生・安全・安心を供給する

理工協産株式会社 酪農13期

取締役エクリン営業部長 小浦 隆文

〒104-0028
東京都中央区八重洲2-8-1 日東紡ビル
tel 03-3281-8821 fax 03-3281-8215
URL http://www.ricohkyosan.co.jp

登録された日光、自然豊かな観光地として那須塩原、農産物ではカンピョウと日本一の出荷量を続けるイチゴ、グルメファンには宇都宮のギョウザで知られますが、地味な県という印象が強く、地図上で栃木を示すことのできる人はひじょうに少ないようです。県北に位置する那須地区は酪農経営者の同窓生が多く、今では数多くの酪農セミナーを開催し、関東地区では活発な活動をしている支部と自負しています。

今年になって前会長の綱川司郎さんが高齢を理由に辞任されることとなり、その後を担うよう指名され、本年から栃木県支部長として歩み始めました。会社の勤めは少し荷が軽い立場になりましたので、関東同窓会の各支部にもできるだけ参加させてい

ただき、交流を深めつつ、同窓会の行く道を皆さんと共に探し求めて行きたいと思っております。

編集後記

このたびは関東同窓会創立35周年を迎え、一つの節目として皆さんで喜びを分かち合いたいと思います。式典では感謝状はじめ記念品を頂戴し恐縮しております。改めて厚くお礼申し上げます。

私は3期7年間事務局をお預かりして参りましたが、以前から同窓会の絆を太くするには、まず情報の発信と共有・開示を掲げ、会報「あるまめーと」を多くの同窓生の協力によって発信して参りました。南雲会長が多くの場にて強調されているように、将来的には関東のみならず学園運営の一助とするための位置づけとして酪農学園、連合同窓会、地域同窓会へと、全国へ発信する「提言」型の同窓会とする機会となればと願う一人であります。

今号は創立35周年特別記念号として、多くの皆様から寄稿いただき、激励のお言葉を有難うございました。また、毎号のことながら現職で多忙な志村智子さんに編集のご協力をいただきました感謝申し上げます。

(編集委員・前事務局長 佐々木六朗記)

日本獣医生命科学大学客員教授
酪農学園大学特任教授
学校法人酪農学園Executive Senior Adviser
酪農学園大学獣医学科同窓会会長
社団法人 日本獣医師会

獣医4期

顧問 北村直人
獣医師

衆議院前議員(昭和61年~平成17年)

〒107-0062東京都港区南青山一丁目1番1号 新青山ビルディング西館23階
tel.03-3475-1601(代) fax.03-3475-1604

ANIMAL
CARE
HOSPITAL

獣医2期

動物愛護病院
〒184 小金井市緑町4-2-3
tel.042-383-5463
fax.042-384-1134

院長 河野 勝

Kanamachi Animal Clinic
金町 アニマル クリニック

獣医15期

院長 増 田 寿 子

東京都葛飾区金町2-29-6 KACビル1F
Tel. 03-3609-7517 Fax. 03-3609-3515

富士食品工業株式会社

酪農21期

工場長

渡 辺 仁

山梨県山梨市鴨居寺170

TEL.0553-22-2611(代)

FAX.0553-22-4125

祝 関東同窓会創立35周年

酪農学園関東同窓会
役員一同